



ANNUAL
REPORT
2024
みどりのトラストNo.108

公益財団法人大阪みどりのトラスト協会

2024年度（2024.4 – 2025.3）事業報告



日頃より、大阪みどりのトラスト協会の事業にご理解・ご支援をいただき、厚くお礼申し上げます。この度、2024年度事業報告「ANNUAL REPORT 2024」(みどりのトラスト108号)を発行しましたので、お手元にお届けいたします。

「生物多様性国家戦略2023-2030」（2023年3月に閣議決定）では、2030年に向けた目標「ネイチャーポジティブ（自然再興：自然を回復軌道に乗せるため、生物多様性の損失を止め、反転させること）の実現」に向けた5つの戦略が示されています。その一つである「生態系の健全性の回復」を図るため、2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全する国際目標「30by30（サーティ・バイ・サーティ）」の達成が求められています。わが国では、陸域の20.5%、海域の13.3%が国立公園など法令による保護地域として保全されていますが、目標の30%には届いていません。そこで「人々の生業や民間の自発的な取り組みによって自然が守られている場所」に注目し、2023年度より民間の取り組み等によって生物多様性の保全が図られている区域を「自然共生サイト」として国が認定する制度がスタートしました。2025年3月、トラスト協会の保全地である三草山ゼフィルスの森がこの自然共生サイトに認定されました。今後も、地元住民、市民ボランティア、学識経験者、行政などの関係者と連携し、健全な里山の生態系を維持するべく、活動を進めてまいります。

2024年度、この三草山ゼフィルスの森において、深刻化している鹿の食害による生物多様性の損失を食い止めるべく、保全地を取り囲む大規模な防鹿柵を設置するプロジェクトに着手しました。2024年度は、エリアの半分の約7haを対象に、総延長約1kmにおよぶ防鹿柵を計画し、多くの皆さまにご協力いただき、年度末までに無事に設置し終えることができました。2025年度は、残りのエリアの防鹿柵の設置に取り組むとともに、モニタリング調査により各種データを収集し、防鹿柵設置の効果の検証を進めます。

当協会は、引き続き、大阪府域に残された貴重な自然環境の保全、他団体と連携した府内各地の里山の生物多様性の保全を進めるほか、「緑の募金」による学校や市街地の緑化推進事業、みどりの未来を担う子どもたちの育成などの事業を推進してまいります。今後も変わらぬ皆さま方のご支援をお願いいたします。

2025年7月



公益財団法人大阪みどりのトラスト協会
会長 石井 実



巻頭コラム**里山林の変遷**

北摂里山大学学長 兵庫県立大学名誉教授 服部 保

2

自然環境保全事業

7

和泉葛城山ブナ林保全事業	8
三草山ゼフィルスの森保全事業	10
地黄湿地保全事業	12
自然環境保全地域支援事業(社寺林)	14
地域連携推進事業	15
府内自然環境保全活動支援事業(大阪里山ネットワーク)	16
大阪さともり地域協議会の運営	17
CSR等支援事業	18

緑の募金事業

19

緑の募金事業 収入・支出について	20
緑の募金運動推進事業	21
緑化推進・森林の整備事業	
・緑化推進事業等交付金　・堺第7-3区「共生の森づくり」の推進　・生駒山系花屏風活動支援事業	22
・緑の少年団活動支援事業	23
・緑化推進運営協議会の運営	24

森林環境教育・森林ESD 普及啓発 その他

25

森林環境教育・森林ESDの推進事業	
・みどりづくりの輪活動支援事業	26
・みどりの一歩事業　・教育大学学生向け講習の企画・運営等	27
・国土緑化運動・育樹運動ポスター原画コンクール	28
・パネル展示の開催	29
普及啓発事業	30
会議開催・内部管理体制の整備状況	31
資料	32

ご支援・ご協力

35



里山林の変遷

服部 保

北摂里山大学学長 兵庫県立大学名誉教授

里山林 縄文の照葉樹林から弥生の照葉里山林

大阪府下には、和泉山脈、生駒山地、北摂山地などに、たくさんの里山林が残されています。これらの里山林は、現在使われていないので、正式には里山放置林と言うべきものです。現在の里山放置林は、長い歴史の中で形成されてきたものですが、どのような過程を経て、里山放置林に至ったのでしょうか。

里山林とは、継続的に燃料を生産するために、ヒトによって作られ、維持されている薪炭林、燃料林、雑木林、薪山（まきやま）、柴山（しばやま）のことです。里山林はヒトによって伐採され、利用された後、伐株からの萌芽、またはアカマツのように親木から散布された種子によって自ら再生します。社寺に保全されている自然林に対して、このような樹林は、天然更新はしますが、ヒトによって伐採されるので、半自然林とよばれています。なお、半自然林を表す言葉として、二次林という用語がよく使用されています。二次

林とは二次遷移上の樹林のことであり、里山林はまさに二次林なのですが、自然林の対義語ではありません。自然林の対義語は半自然林となります。里山林がヒトによって作られた半自然林とすると、ヒトの手が入る前の樹林、自然林はどのようなものだったのでしょうか。

弥生時代以前、大阪府下の海拔600－750m以下の立地に広がっていたのは照葉樹林という樹林でした（図1）。照葉樹林は高さ

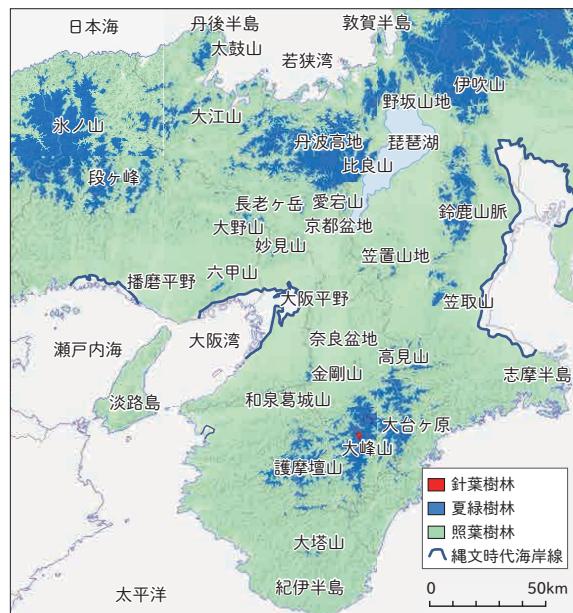


図1. 近畿地方における原植生図（約3000年前）。

30m、胸高直径1mに達するような巨木のコジイ、イチイガシ、アカガシなどの照葉高木より構成され、林内にセンリョウ、マンリョウ、フウラン、エビネなどの多様な植物の生育する樹林です。

弥生時代以降、照葉樹林は妙見山奥之院（能勢町）、吉川八幡神社（豊能町）、本山寺（高槻市）、神峯山寺（高槻市）、觀心寺（河内長野市）、意賀美神社（岸和田市）などの社寺林としてわずかに残されたほかは、徹底的に破壊され、水田、畑、里山林、ススキ草原などに転換されました。最初に作られた里山林、弥生の里山林を見てみましょう。自然林である照葉樹林を伐採したばかりなので、弥生の里山林はコジイ、アラカシなどの照葉樹から構成されている照葉里山林でした。縄文の照葉樹林（照葉自然林）と弥生の照葉里山林（照葉半自然林）とは照葉樹が優占していることでは同じですが、照葉里山林は高さも低く、細い照葉樹で構成される多様性を

失った樹林であって、照葉自然林とは大きく異なります。

古典から読み解く里山林の変遷

照葉里山林が燃料供給林として利用されている過程で、生育の早さなどより、夏緑樹（落葉広葉樹）の優占する里山林（夏緑里山林）へと変化していきました。それでは、夏緑里山林に変わった年代はいつでしょうか。花粉分析や植物遺体を使って調べる方法もありますが、古典を使って調べましょう。飛鳥－奈良時代の古事記、日本書紀、風土記、万葉集を読めば、その当時の植生が分かるかもしれません。

古事記などには植物はそれほど記されていないのですが、万葉集にはたくさんの植物が詠まれています。それらの歌をよく詠んでいくと、植物の生育する群落が浮かび上がってきました。万葉集にはヨシ群落、チガヤ群落、



豊能町吉川の八幡神社の照葉樹林と紅葉している夏緑里山林

照葉樹林、ハンノキ林などの様々な群落が詠まれていますが、身近な里山林も、多くの歌に詠まれていました。その内容は秋の紅葉です。秋の紅葉といっても、イロハモミジなどの紅葉ではなく、山全体が紅葉するといった、夏緑樹の渋い紅葉です。このことから奈良時代の里山林は照葉樹の優占する常緑樹林から夏緑樹（落葉樹）の優占する里山（夏緑里山林）に変わっていたことが分かりました。

万葉集に「春は萌え 夏は緑に くれなゐのまだらに見ゆる秋の山かも」という歌が詠まれています。この歌には里山林が冬枯れから新緑に、さらに深緑に変わり、その後紅葉してゆく四季の変化がよく捉えられています。さらに重要なのは、秋の紅葉が「まだらに見ゆる」とされている点です。これは樹木の紅葉の色が違うので、まだらに見えるのではなく、里山林の管理手法である輪伐によって、伐採年の違う林分の紅葉の色が違うことを示しています（図2）。この一首で、万葉時代か

ら里山林は輪伐されていたことが分かります。

さらに時代が流れ、人口が増加すると夏緑里山林は、貧栄養の土壌条件に耐えるアカマツ林（針葉里山林）に変わります。針葉里山林に変わったのはいつでしょうか。この時期は、貴族が贈物に用いていたヒラタケ（夏緑里山林に多い）とマツタケ（アカマツ林に出現）についての日記の記録から推定されています。室町時代になると、贈答用にマツタケが多くなりますが、このことは室町時代にアカマツ林が広がったことを示しているのです。古典を用いて、植生の変化を推定するのはたいへん興味深いですね。

里山放置林への変遷と 新たな里山林へ

江戸時代に入ると、針葉里山林の過剰利用によって、はげ山化した所も少なくありませんでした。はげ山の緑化により、明治以降、再び針葉里山林が育成されました。1960年

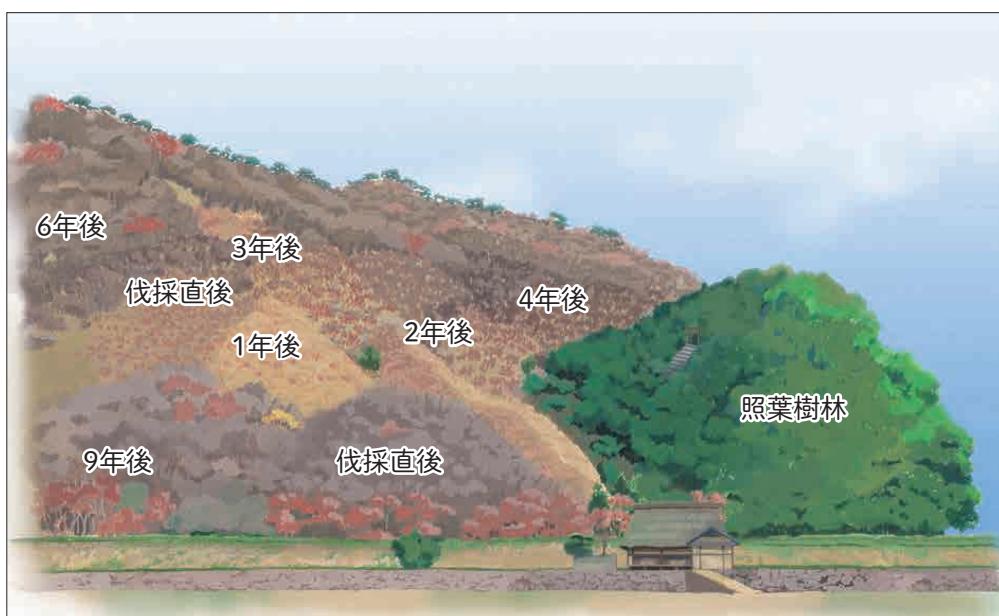


図2. 里山林のパッチワーク状景観。

春は萌え 夏は緑に 紅(くれない)の まだらに見ゆる 秋の山かも（万葉集2177）

代以降のマツクイムシ（マツノザイセンチュウ）によって、針葉里山林は大きな打撃を受けました。松枯れによって、針葉里山林内に生育していたコナラなどの夏緑樹が繁茂し始め、今度は室町時代とは逆に針葉里山林から夏緑里山林へと変化しました。このような状態は70-80年続いていますが、この期間中と大きく変わったのはエネルギー革命によって、夏緑里山林の利用が停止したことです。

利用の停止された夏緑里山林では、まず低木類（柴）の刈取りがなくなりました。つまり、「桃太郎のおじいさん」は、毎日続けていた「山（里山）へ柴刈り」をやめたということです。このことによって、夏緑里山林は夏緑里山放置林となり、10m以下に抑えられていたコナラなどの樹木が20mに達するほどの大木になるとともに、林床に細々と生きていたヒサカキ、ソヨゴ、アラカシ、ネズミモチ、ヒイラギなどの照葉樹が一斉に大きくなり始めました。照葉樹が繁茂することによって、下層の照度は著しく低下し、コバノミツバツツジ、ヤブムラサキ、ガマズミといった夏緑低木類や草本類の生育は抑えられ、種多様性の低下と共に林床の裸地化が進行します。

つまり、夏緑里山放置林への遷移が、大阪府下の至る所で毎日、毎日進行し、種多様性の低下、植生景観の単純化、裸地化による表層侵食の進行という生物多様性保全、地域景観の維持、災害防止という視点からみて望ましくないことが発生していることになります。130年ほど前は、はげ山の緑化が呼ばれていたのに、現在では再生した樹林の管理という新しい課題が発生したことになります。

さて、それでは里山放置林をどのように管理すれば、生物多様性、景観性、防災上望ましい樹林となるのでしょうか。簡単な答としては、里山放置林を昔の里山林に戻すということですが、今更、私達の生活を薪・炭・柴を使った生活に戻すことは無理なので、薪炭供給用の里山林へ復活させることは困難です。縄文時代の照葉樹林から現在の里山放置林までの変遷（図3）を理解した上で、新たな森づくりの考え方が必要です。現在、私が提案しているのは、生物多様性の抑制、景観性の低下、災害発生の要因となる照葉樹のみを除伐して、林内を明るくする手法です。このようにして育成してゆく目標林を多様性夏緑高

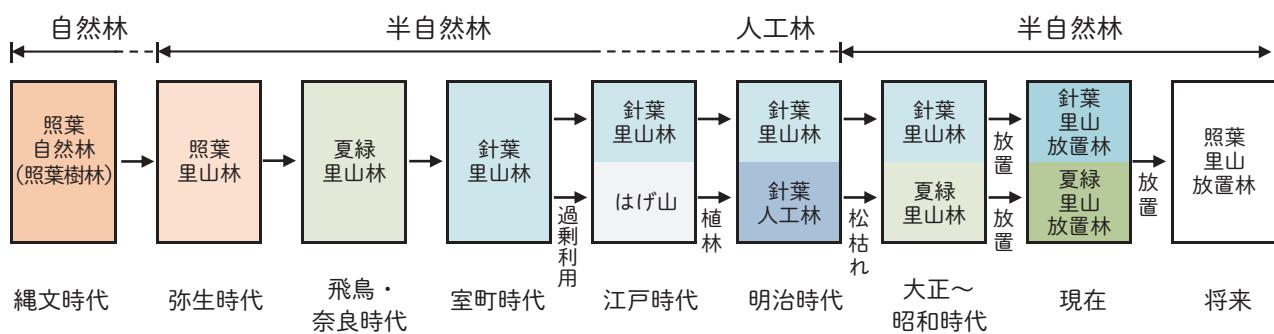


図3. 近畿地方の人口集中域における縄文時代から現在に至る植生の変遷。

照葉樹林（照葉自然林）より照葉・夏緑・針葉里山林（半自然林），はげ山，各種里山林を経て，里山放置林への変遷。

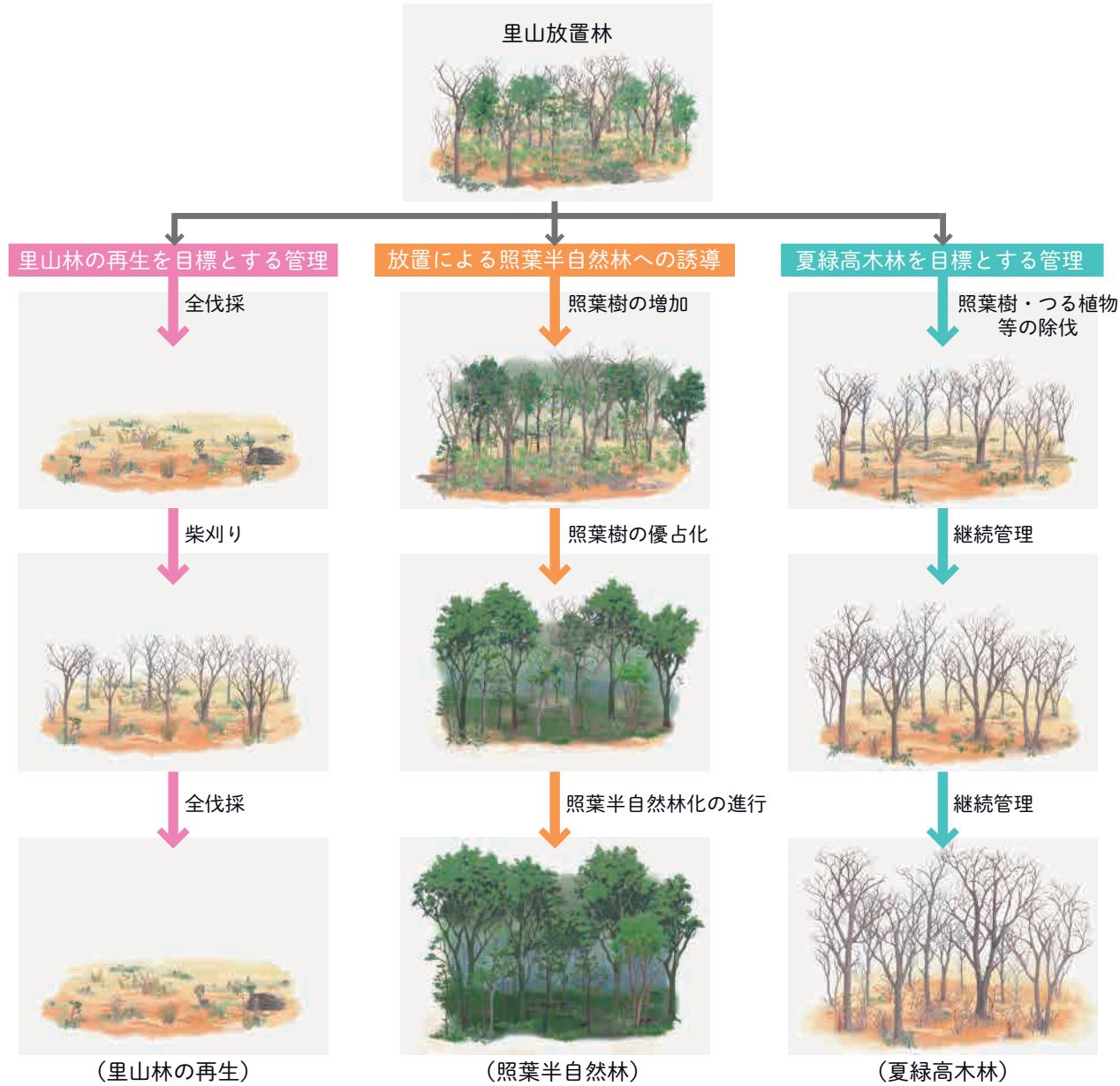
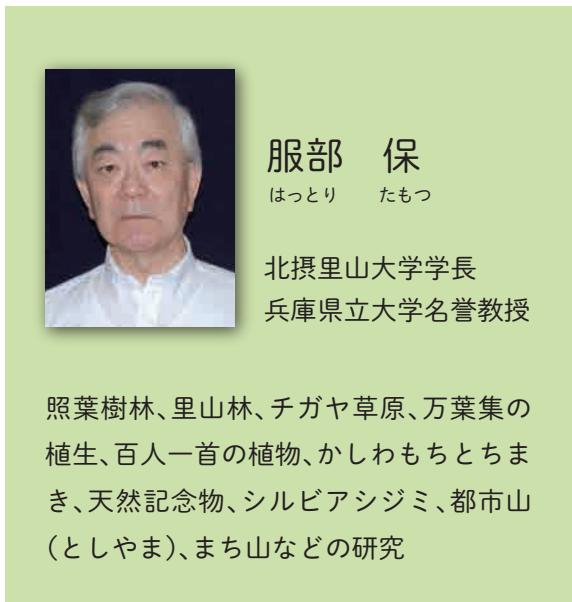


図4. 里山放置林管理の3タイプ。

木林とよんでいます（図4）。ただし、温暖化の進行もあり、里山放置林の照葉半自然林化は加速しています。照葉半自然林化してしまった樹林の目標林の設定やその目標林に向けた管理方法を検討すべき時代が来たように思います。

【参考図書】

服部 保・南山 典子 2024. 里山を学ぶ(改訂版).
兵庫県緑化推進協会.
服部 保ほか 2024. 万葉集の里山林. 兵庫自然研究会報告12:1-12.

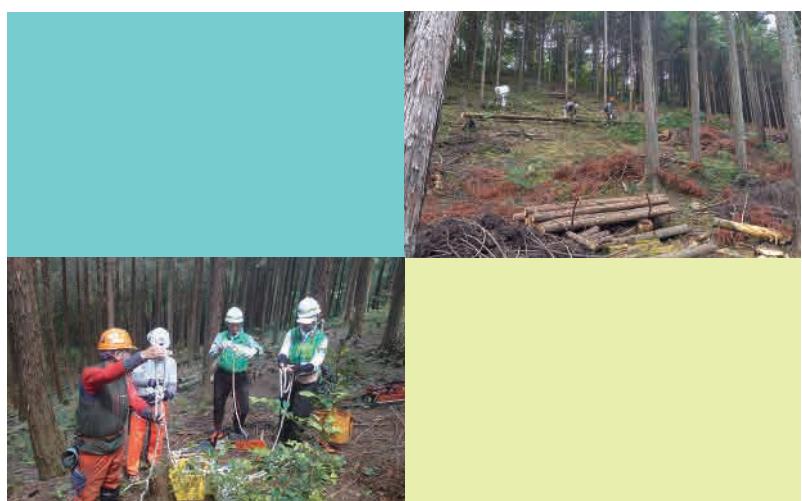




自然環境保全事業

大阪府は面積約1,900平方キロメートル。全国で2番目に小さい都道府県ながら、人口は全国で3番目に多く、約880万人が暮らしています。府内の土地の多くは、住宅地や商工業用地として利用されていますが、山や農地、川から海にいたる多様な環境には、8,700種を超える多くの生物が棲み、それらはお互いにつながりあいながら生きています。

自然環境保全事業では、大阪府を代表する自然環境である「和泉葛城山ブナ林(岸和田市・貝塚市)」、「三草山ゼフィルスの森(能勢町)」、「地黄湿地(能勢町)」の保全活動を推進するとともに、府内の自然環境保全団体のネットワーク構築やCSR活動の支援などの事業を通して、大阪の自然環境・生物多様性の保全に取り組んでいます。



和泉葛城山ブナ林保全事業（岸和田市・貝塚市）



ブナ林は日本の冷温帯を代表する森林です。「和泉葛城山ブナ林」は、太平洋側の、標高800メートル前後の比較的高度の低い位置に分布しており、ブナ分布の南限圏に近い場所でこのようなブナ林が存続することに大きな価値があるとして、1923(大正12)年に国の天然記念物に指定されました。

和泉葛城山ブナ林では、大径木の枯死が進み、稚樹が極端に少ないうえに近年の種子生産状況も思わしくない等、長期的に見てブナ林としての存続が危ぶまれる状況にあります。

そのため、「和泉葛城山ブナ林10カ年計画(2021年度～2030年度)」(和泉葛城山ブナ林保護増殖検討委員会)に基づき、コアゾーン(国指定天然記念物区域)、バッファゾーン(緩衝樹林帯)での各種調査や森林保全活動を実施するとともに、ブナ林や自然環境保全についての普及啓発活動を行っています。

2024(令和6)年度は、過年度に実施された植生調査・毎木調査のモニタリング調査を実施したほか、開花・結実、気象、動物等に関する調査や一般参加の観察会を行いました。

【2024(令和6)年度の主な事業実績】

(1)計画検討・調査等

- ・保護増殖検討委員会、ワーキンググループ会議の開催
- ・ワーキンググループ現地視察の開催
- ・過年度に実施された植生調査、毎木調査のデータをもとに、モニタリング調査を計画、実施
- ・天然下種更新モニタリング調査、花芽・結実調査、花がら・種子調査、生育環境調査、哺乳類モニタリング調査、ナラ枯れ被害状況調査の実施
- ・和泉葛城山の昆虫相や陸産貝類をテーマとした研究交流会の開催



現地視察



ブナの実生



毎木調査

(2)保全活動等(保全活動参加目標人数471人／実績621人)

- ・和泉葛城山ブナ愛樹クラブによるブナ若木の育成・森林保全等活動の支援
- ・ナラ枯れへの対応として、被害を受けて枯死した木から媒介虫が拡散することを抑制するビニールシート巻き施工の実施
- ・地元の方による巡回
- ・看板、案内板、解説板等の更新・新設に向けた検討



ブナの開花調査



森林整備作業



ナラ枯れ対策シート巻き

(3) PR活動等

- ・ブナ林観察会の開催(5月26日)



ブナ林観察会

【2025(令和7)年度の主な事業】

「和泉葛城山ブナ林 10カ年計画(2021年度～2030年度)」に基づき、各種調査及び保全活動、府民向けの普及啓発活動を行います。

① コアゾーン及びバッファゾーンにおける調査研究等

- ・植生の変化状況や森林動態を調べるために、過年度に植生調査や毎木調査を行った地点におけるモニタリング調査を実施します。
- ・ブナの生存状況や生育状況を調べるために、植生調査や毎木調査と並行して、天然ブナの全数調査に着手します。
- ・天然下種更新モニタリング調査、花芽・結実調査、種子調査、生育環境調査、哺乳類モニタリング調査を継続します。

② バッファゾーン等における保全活動等

- ・ニホンジカの確認やイノシシの増加等の調査結果を受けて、監視体制を強化し、獣害対策について検討を進めます。
- ・和泉葛城山ブナ愛樹クラブ等によるブナ若木の育成・森林保全整備活動を支援します。

③ P R 活動等

- ・天然記念物100周年記念の植樹木について、目的や趣旨を周知する石碑等を設置します。
- ・「10カ年計画」の後半にむけて、進捗状況を確認し、必要に応じて計画の見直し・修正、新たな課題などの追加を行います。
- ・市民のブナ林保全への関心を高め、保全活動への参加を促すことを目的としたシンポジウムを開催します。
- ・「自然共生サイト」の登録に向けて準備を進めます。
- ・看板、案内板、解説板等の整備を進めます。
- ・企業等によるCSR活動、地元学校や博物館等地元他団体との連携に努めます。

④ 運営・調整

- ・和泉葛城山ブナ林保護増殖検討委員会、同ワーキンググループ会議を開催し、専門家・関係者のご意見を伺いながら、上記事業を効果的かつ円滑に進めます。
- ・ブナ林をフィールドとした調査・研究成果の共有を目的とした研究交流会を開催します。



三草山ゼフィルスの森保全事業（豊能郡能勢町）



三草山ゼフィルスの森は、大阪府と兵庫県の府県境に位置する三草山(標高564m)の山麓部にあり、大阪府緑地環境保全地域に指定されている場所で、ヒロオビミドリシジミを始めとするゼフィルス(ミドリシジミ類の蝶の愛称)をシンボルに、生物多様性豊かな場所の維持・向上を目指して里山保全活動を行っています。このたび環境省の「自然共生サイト」(民間の取り組み等によって生物多様性の保全が図られている区域)に認定されました。

三草山の麓にある神山(こやま)の棚田では、遊休農地を多様性豊かな稻作水系へと復活させるべく、遊休農地再生事業「タガメの田づくり」の活動として、昔ながらのお米づくりをしながら棚田の維持管理を行っています。

ここでは、学識経験者、地元住民、ボランティア団体、大阪府、能勢町、当協会などが参画する三草山ゼフィルスの森保全検討会議が策定した保全活動計画に基づいて、ゼフィルスの生息に必要な広葉樹の育苗や植栽、環境整備、シカ対策などの保全活動を進めています。

2024(令和6)年度は、3ヵ年事業計画(2023年度～2025年度)に基づいて、東側エリアに金網フェンスによる防鹿柵(約1km)を設置しました。また、地元のささゆり学園(能勢町立小中一貫校)の4年生を対象にどんぐり教室を行い、ナラガシワなどの苗木づくりに取り組みました。

普及啓発として、観察会などのイベント開催や、CSR活動の協力などを行いました。

【2024(令和6)年度の主な事業実績】

(1) 計画検討・調査等

- ・三草山ゼフィルスの森保全検討会議の開催
- ・森林の更新に伴うゼフィルスへの影響調査(大阪公立大学、日本鱗翅学会等)
- ・森林環境の変化による植生や昆虫類への影響調査(大阪公立大学等)
- ・タガメの田づくり活動地・耕作放棄地での水田再生の研究(大阪公立大学等)



ゼフィルスの食樹調査

(2) 保全活動等(保全活動参加目標人数1,150人／実績1,515人)

- ・能勢みどりすとクラブ、能勢の里山を繋ぐ会によるボランティア保全活動への支援
- ・東側半分のエリアに防鹿柵(金網フェンス)の設置
- ・関西大学第一中学校 能勢プロジェクトへの支援
- ・ささゆり学園との連携(苗木づくり)
- ・地元の方による巡回活動



保全活動:草刈り



防鹿柵設置



関西大学第一中学校能勢プロジェクト



ささゆり学園どんぐり教室

(3) PR活動等

- ・自然共生サイトの認定申請(2025(令和7)年3月認定)
- ・観察会等のイベント開催
ゼフィルス観察会(6/16)、タガメの田づくり田植え(5/19)・稻刈り(9/22)・冬支度(12/1)、ハイキング(11/23)
- ・エネクスフリート株式会社によるCSR活動「エネフリSmile」への協力(11/17)
- ・NHK WORLDによる里山の生物多様性取材「Saving Japan's shrinking biodiversity」への協力(12/8)



ゼフィルス観察会



タガメの田づくり田植え



エネフリSmile: リースづくり

【2025(令和7)年度の主な事業】

3ヵ年事業計画に位置付けた全エリアへの防鹿柵設置を継続します。また、持続可能な保全活動を行うため、学校教育との連携を図るとともに、企業CSR活動の誘致を行います。

① 計画検討・調査等

- ・三草山ゼフィルスの森保全検討会議を開催します。
- ・専門家の協力を得て、各種調査を実施します。

調査内容: 森林の更新に伴うゼフィルスへの影響調査、ゼフィルスの寄主植物の現存量評価、タガメの田づくりの水生動物調査など

② 保全活動等

- ・シカによる食害からゼフィルス類をはじめ動物が依存する植物を守るため、ゼフィルスの森の西側エリア(全体の約1/4)を防鹿柵で囲います。
- ・ボランティア保全活動(防鹿柵の設置・管理、坪刈り、ササ刈り、クヌギやナラガシワ等の果実の採取、苗木の育成、森の更新作業など)を支援します。
- ・地元の小中一貫校及び高校と連携をして、保全活動に努めます。
- ・周辺地域も含めた三草山ゼフィルスの森を紹介するリーフレットを作成します。
- ・巡回活動を実施します。(地元へ委託)

③ PR活動等

- ・観察会、保全活動体験会、タガメの田づくりイベント(田植え・稻刈り等)を開催します。
- ・企業等によるCSR活動や、メディア取材など、三草山ゼフィルスの森を活用して行う活動のサポートなどを行います。



地黄湿地保全事業（豊能郡能勢町）



地黄湿地は面積1haに満たない貧栄養の滲水(しんすい)湿地で、湿地特有の多様な動植物が生育・生息することから大阪府緑地環境保全地域に指定されています。ここではサギソウや日本で一番小さなトンボであるハツチョウトンボ等をシンボルに、保全活動を行っています。

乾燥化・陸地化が進み湿地環境の衰退がみられていましたが、2014(平成26)年に学識経験者、地元住民、ボランティア団体、大阪府、能勢町、当協会等が連携して「地黄湿地再生保全検討会議」を設立し、推進体制を整えました。同じころに受けた遺贈寄付を活用し、陸地化した区域の侵入木伐採やススキの伐根など、大きく手を加えたことから、湿地環境が大幅に改善しました。また、2019年度には地黄湿地保全活動グループ（地黄の森FANクラブ）が結成され、水環境の整備等の再生保全活動を継続しており、生物多様性豊かな環境の維持・向上が図られています。

2024(令和6)年度は、「3ヵ年計画(2022年度～2024年度)」(地黄湿地再生保全検討会議)に基づき、主に湿地周辺の森林整備と木道の補修を行いました。あわせて、能勢町の令和6年度里山活力創造推進事業補助金等を活用し、ニホンジカなどの食害から動植物を守るため、下池全域を防鹿柵で囲いました。

【2024(令和6)年度の主な事業実績】

(1) 計画検討・調査等

- ・地黄湿地再生保全検討会議の開催
- ・各種調査の実施(植生調査、希少植物の開花数調査、水生動物調査等)
- ・湿地のモニタリング、管理へのフィードバックの実施



湿地部の植生調査



周辺森林の植生調査



哺乳類撮影用センサーハーネス

(2) 保全活動等(保全活動参加目標人数360人／実績287人)

- ・地黄の森FANクラブによるボランティア保全活動への支援
(湿地の環境改善、湿地内・沿岸林縁部の下草刈り、植物調査、ウシガエルなどの外来種や国内外外来種のメダカの駆除等)
- ・湿地下池全域に防鹿柵を設置
- ・湿地周辺の森林整備(日本森林ボランティア協会へ委託)
- ・木道の補修(大阪府森林組合へ委託。資材は地黄の森FANクラブが作成した焼き板・焼き杭等を活用)
- ・シカの食害実態把握のため、周辺森林での防鹿柵設置及び植生モニタリングの実施
- ・地元の方による巡回活動



保全活動:下草刈り後積込み



保全活動:メダカ駆除



防鹿柵設置準備:設置個所の草刈り

(3) PR活動等

- ・観察会・保全活動体験会の開催

トキソウ・ハツチョウトンボ観察会(6/22)、サギソウ観察会(7/28)、秋の生きもの観察会(雨天中止)(10/23)

- ・地元高校による環境学習と保全活動への協力



初夏の観察会



サギソウ観察会

能勢分校の生徒による保全活動体験
(防鹿柵設置)

【2025(令和7)年度の主な事業】

地黄湿地保全事業準備資金を活用し、生物多様性の保全に向けた森林整備などを行います。

① 計画検討・調査等

- ・地黄湿地再生保全検討会議を開催します。
- ・湿地袖部の草原化・湿地内掘削地部分と周辺森林整備部分の植生のモニタリング調査を実施します。
- ・湿地内に生息する水生動物のモニタリング調査を実施します。
- ・サギソウなどの希少植物の生育状況モニタリング調査を実施します。

② 保全活動等

- ・地黄の森FANクラブによるボランティア保全活動を支援します。
- ・観察会等で湿地部を周遊できるよう、木道の新設を行います。
- ・湿地上池周辺に防鹿柵を設置します。
- ・周辺の森林整備を行います。
- ・ウシガエル及び国内外来種のメダカを駆除します。
- ・巡回活動を実施します。(地元へ委託)

③ PR活動等

- ・観察会、地元高校環境学習等を行います。
- ・自然共生サイト登録への申請準備を行います。

自然環境保全地域支援事業(社寺林)

社寺林と呼ばれる神社や寺院の周辺の森林は、古くから保護されており、極相林に近い状態で残されています。大阪府では5つの社寺林が自然環境保全地域に指定されています。当協会は土地所有者(社寺)と保全契約を結び、それらの自然環境を維持・管理するための保全活動に対して助成を続けています。

2024(令和6)年度はそれぞれの社寺林で維持・補修や巡視、普及啓発等の活動が行われました。

【妙見山(みょうけんさん)(能勢町、10ha)】

妙見山山頂付近に位置する比較的低高度地帯(標高662m)のブナ林です。西南日本のブナ林が標高1,000m以上の寒い場所に分布している中で、アカガシ等の常緑広葉樹が混じった林相をもつ、学術的にも貴重な樹林です。課題は、シカによる下層植生の食害により、植生单一化や裸地化による土砂災害の危険性が高まっていることです。地域のボランティア団体や大学・識者と連携し、シカ柵の設置・管理を行うとともに、特別区周辺人工林の混交林への転換などに取り組んでいます。



妙見山:作業道の補修作業

【本山(ほんざん)寺(高槻市、14ha)】

標高500メートル前後で比較的市街地に近いところに位置しているにもかかわらず、自然環境が良好な状態で保全されています。樹齢100年以上の高木が多く、一部にはモミ、ツガ、カシ類等の優れた天然林があり、植物の種類でも淀川北部の山地では随一といってよい豊富な区域です。課題は、倒木や枯枝に加え、シカによる下層植生や木の皮の食害、それによる水源涵養機能の低下がみられること、イノシシやクマの出没です。地域の団体や猟師さんと連携し、シカ柵の設置、倒木除去、追い払いなどに取り組んでいます。



本山寺:維持管理作業

【若山神社(島本町、11ha)】

樹齢200年前後のコジイを主とする極相林に近い林相で、府内でも有数のシイ林です。また、シイ林の周囲をシラカシが取り巻くように成長しており、これはシイ林とカシ林が棲み分けた結果と考えられ、学術的にも貴重です。課題は、竹林の侵入とイノシシ等による獣害です。地域の方々と連携して、侵入竹の除去や獣害箇所の整備などに取り組んでいます。



若山神社:巡視および清掃作業

【美具久留御魂(みぐくるみたま)神社(富田林市、2ha)】

富田林丘陵の東辺部に位置し、コジイを主とする極相林に近い広葉樹林です。林内は樹齢200年前後のコジイをはじめ、ナナミノキ、アラカシ、サカキ等がみられ、丘陵地の典型的なシイ林です。課題は、竹林の侵入、イノシシによる獣害、台風による倒木です。地域の団体と連携して、侵入竹の除去や獣害箇所の整備、倒木で高木がなくなった場所への植林などに取り組んでいます。



美具久留御魂神社:草刈り・侵入竹除去作業

【意賀美(おがみ)神社(岸和田市、1ha)】

神於山(こうのやま)の北西山麓に位置し、コジイを主とする広葉樹林です。ミミズバイ、ホルトノキ、タイミンタチバナ、ツルコウジといった府内でも珍しい植物が見られます。また、典型的な暖地性照葉樹林で、同様の種組成を持つシイ林としては府内で最も北に位置し、学術的にも貴重です。課題は、枯木や倒木、倒木による植生の変化があります。地元の方々と連携して、危険木の処理などに取り組んでいます。



意賀美神社:草刈り・清掃作業

地域連携推進事業

生物多様性の保全に向けた地域・地元との連携のモデルを構築するため、三草山ゼフィルスの森・地黄湿地がある能勢町において地域連携のあり方を模索し、府内の他地域での展開を視野に入れ、得られた知見や成果の情報発信を行いました。

2025(令和7)年度は、能勢町周辺における生物多様性保全活動団体・個人の情報発信を行うWEBサイトを立ち上げます。また、公益財団法人日本自然保護協会と連携し、マイクロソフト社のネイチャーポジティブに貢献する取組みに対する助成金を活用した3ヵ年事業の「能勢プロジェクト」を始動させます。

【2024(令和6)年度の主な事業実績】

- ・能勢てっぺんフェスタの出展(10/6)
- ・自然環境・生物多様性、能勢産材の魅力を伝える子どもを対象としたイベント「里山デイキャンプ in NOSE」(9/7)の運営
- ・都市住民を対象としたバイキングイベントの開催(11/23)
(再掲)



能勢てっぺんフェスタ:丸太切り体験

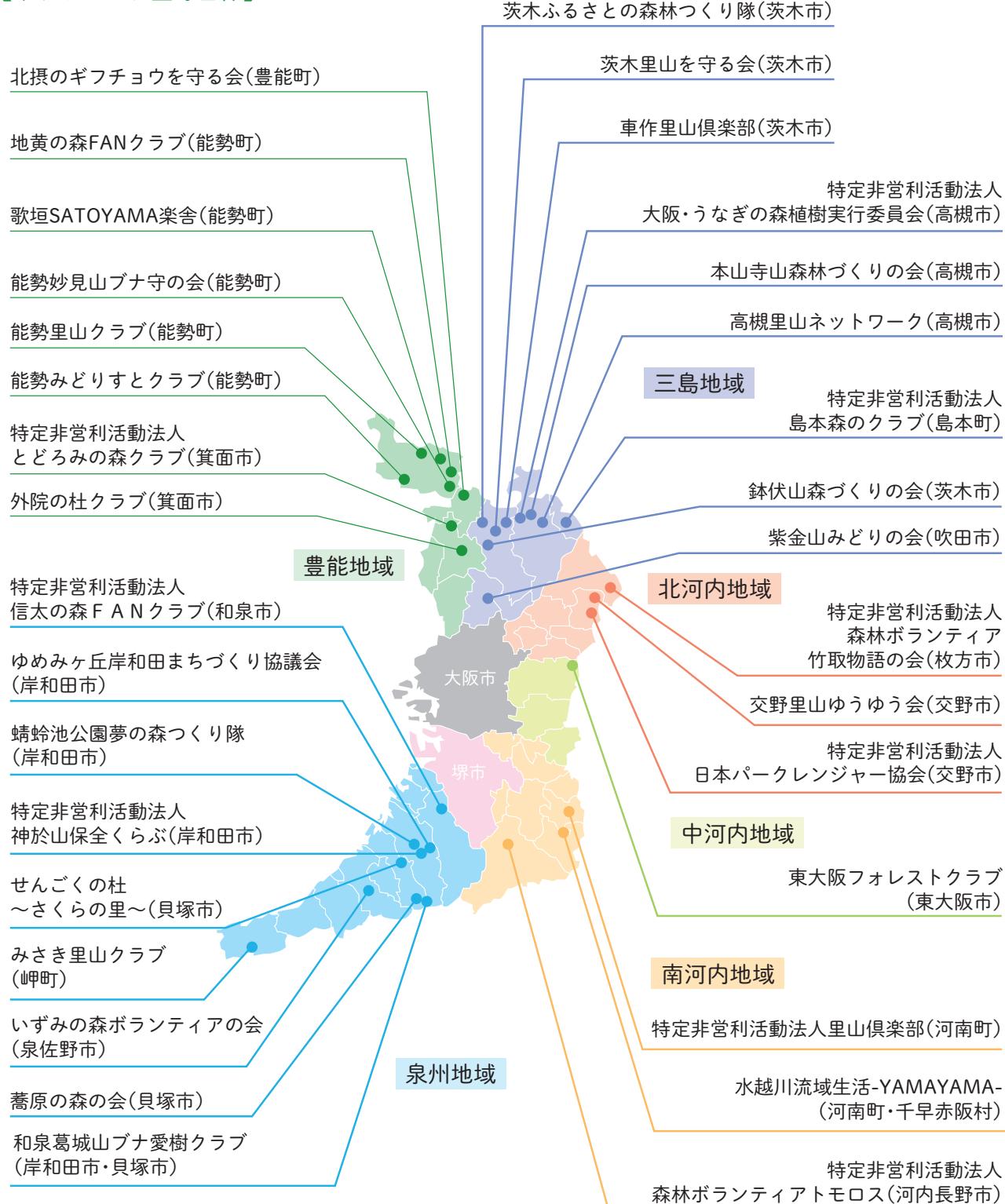


里山デイキャンプ:林業体験

府内自然環境保全活動支援事業(大阪里山ネットワーク)

大阪府内で活動中の里山保全団体を支援するため、大阪里山ネットワークを運営しています。登録団体への支援として、①情報サイト(広報・PRの場を提供)の運営、②少額助成(普及啓発イベント開催や災害復旧等を対象)を行っています。現在、35団体が登録しています(2025(令和7)年3月末時点)。

【ネットワーク登録団体】



大阪府全域 特定非営利活動法人日本森林ボランティア協会
生物多様性TEAM115

【2024(令和6)年度の主な事業実績】

(1)少額助成事業の実施

- ・11団体13件の申請に対し、合計511,476円の助成

(2)情報発信等

- ・大阪府立中央図書館においてパネル展示(4/18~5/6)



パネル展



少額助成:信太の森FANクラブ(柵の補修)



少額助成:能勢妙見山ブナ守の会(観察会実施)



少額助成:里山俱楽部(斜面修復)

大阪さともり地域協議会の運営

大阪さともり地域協議会は、2013(平成25)年度からスタートした林野庁の「森林・山村多面的機能發揮対策交付金事業」の実施にあたって、大阪府域を対象として設置された地域協議会です。当協会はその事務局として、活動組織への交付金の交付、活動に対する支援や指導等を行っています。

2024(令和6)年度は、「活動地の野生動物被害対策を考える」をテーマとしたセミナー開催やアドバイザー派遣などに加え、チェーンソー安全講習会を開催するなど、持続可能な活動推進に資する取り組みを行いました。

2025(令和7)年度より、同事業は「里山林活性化による多面的機能発揮対策交付金事業」として再スタートします。引き続き事務局として適正で円滑な事業の推進に努めます。

【2024(令和6)年度の主な事業実績】

- ・交付金申請採択団体
活動組織26組織
交付金 11,604千円
- ・大阪さともり地域協議会
総会(4/19 web開催)
審査会(4/19 web開催)
- ・活動組織へのアドバイザー派遣(2活動組織、2回)
- ・安全講習会
チェーンソー安全講習会(5/24 茨木市錢原地区)
救急法応急救手当安全講習会(1/13 大阪産業創造館)
- ・セミナー・交流会
里山保全セミナー(12/9 大阪産業創造館)



チェーンソー安全講習会



里山保全セミナー

CSR等支援事業

C
S
R

社員参加型の森づくりなど、自然環境保全活動に関心のある企業に対して、大阪府や里山保全団体等と連携し、活動計画の提案や活動時の安全管理・指導などの支援を行っています。

2025年度も引き続き企業による自然環境保全などの環境への取り組みを支援していきます。

(1)新規活動の立上げ支援

企業の森づくりやCSR活動に関心のある複数の企業より、当協会の取組みや提供可能なサポートへの問合せがあり、それらの相談に対してサポートを行いました。

(2)既存活動支援

企業名	活動地	タイプ	2024年度の活動内容
株式会社NTTドコモ関西支社	ドコモ泉南堀河の森 (泉南市)	自社フィールド	里山保全活動・オオムラサキの保護活動など
エネクスフリート株式会社	三草山ゼフィルスの森 (能勢町)	協会主催活動地	里山保全活動、案内看板の更新、社会貢献活動の実施
株式会社立花エレテック	枚方市東部清掃工場 (枚方市)	大阪府アドプトフォレスト制度の活用	新入社員研修による工場見学、タケノコ掘りなど
株式会社平和堂	枚方市東部清掃工場 (枚方市)	大阪府アドプトフォレスト制度の活用	アドプトフォレスト調印式の実施 社員研修による竹林整備・道普請など



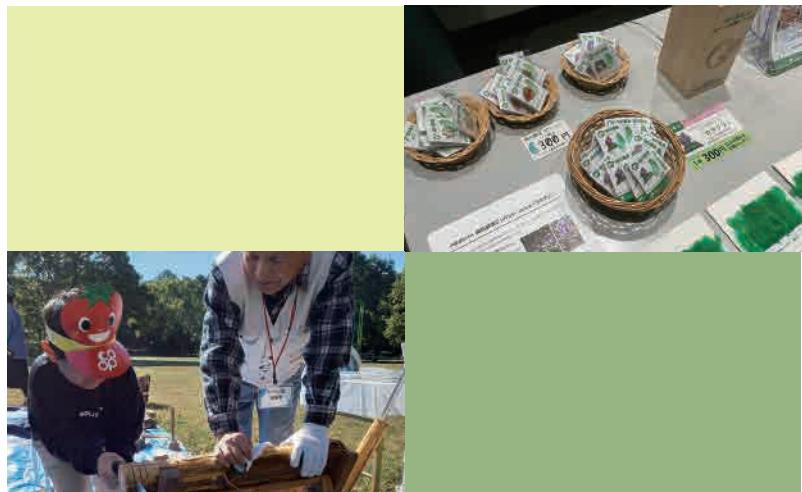
NTTドコモ関西支社:道普請



立花エレテック:新入社員研修



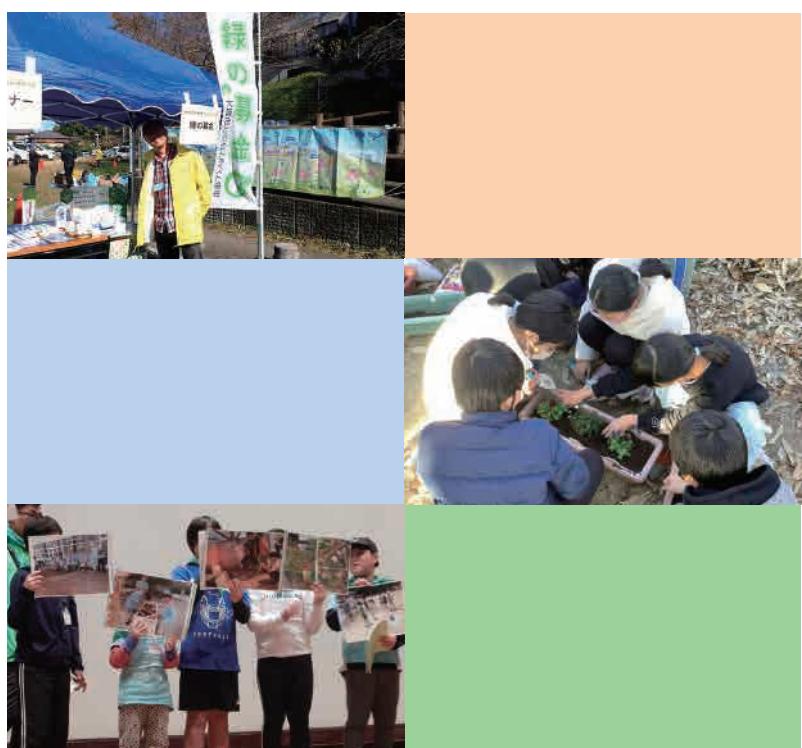
平和堂:道普請



緑の募金事業

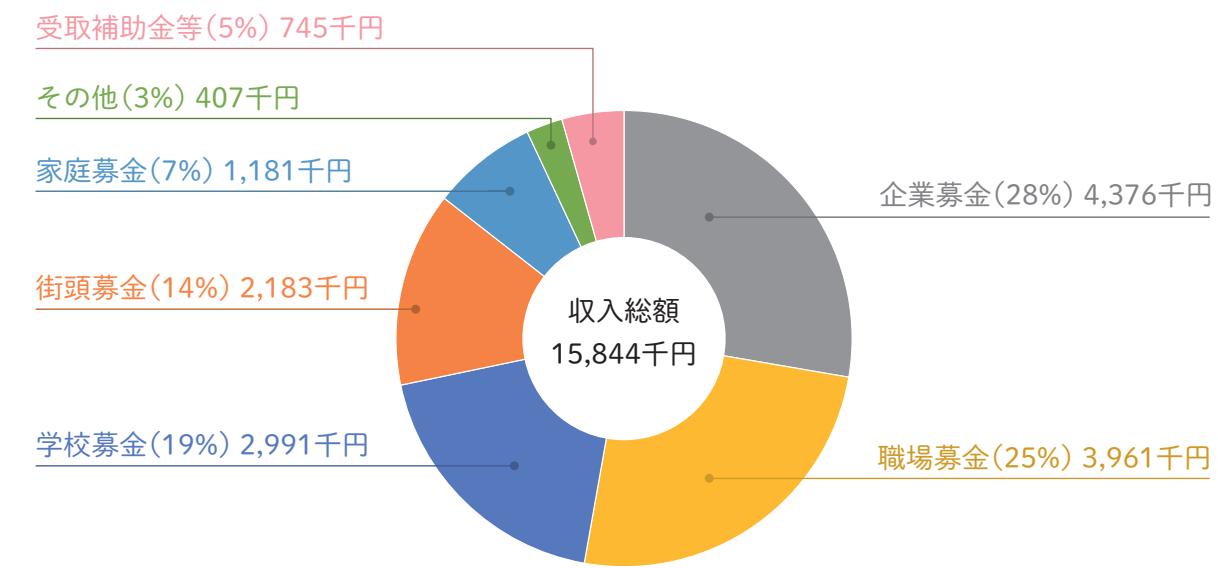
「緑の募金による森林整備等の推進に関する法律」に基づき寄付金の募集を行うもので、大阪府では、当協会がその業務を行う団体として指定されています。

府民・企業・団体などの皆さんにご協力いただいた「緑の募金」を活用し、市街地や学校の緑化、また教育現場への助成事業として、「みどりづくりの輪活動支援事業」や「みどりの一歩事業」などを実施しています。



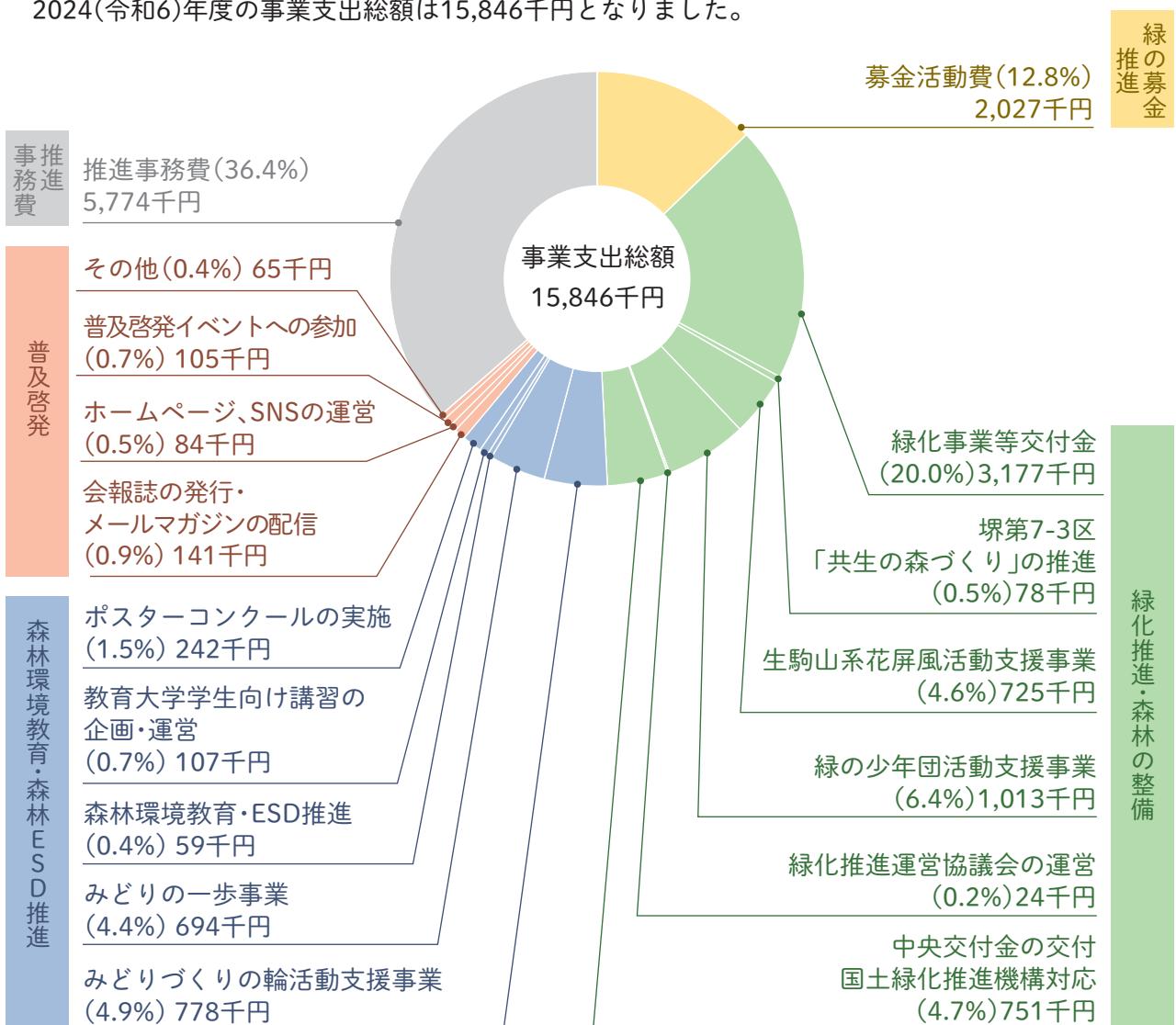
緑の募金事業 収入について

2024(令和6)年度の収入総額は15,844千円で、前年度比97%となりました。



緑の募金事業 支出について

2024(令和6)年度の事業支出総額は15,846千円となりました。



緑の募金運動推進事業

(1) 普及啓発資材の整備

- ・緑の募金運動および普及啓発の円滑な推進を図るため、募金資材を整備しました。(緑の羽根、緑化バッジ、PRチラシ、ポスター、募金箱)
- ・緑化バッジは、大阪府立港南造形高等学校の協力を得てデザインされ、選考会を経て、最優秀賞の作品が採用されました。



バッジデザイン選考会



2024(令和6)秋バッジ(クヌギ)
大阪府立港南造形高等学校
天野 七実さんのデザイン

(2) 募金活動の推進

- ・日常的な募金活動に加え、募金キャンペーン期間を設け、大阪府庁舎などに募金箱を設置するなど、集中的に募金活動を推進しました。

〈キャンペーン期間〉

春季 2024(令和6)年3月1日～5月31日・秋季 2024(令和6)年9月1日～10月31日

- ・「水都おおさか森林(もり)の市」(10/27 毛馬桜之宮公園・近畿中国森林管理局)や「大阪自然史フェスティバル」(11/16・17 大阪市立自然史博物館)などのイベントに出展し、募金の協力を呼びかけました。



募金箱設置:ATC



募金箱設置:大阪府庁



募金呼びかけ:大阪市立自然史博物館

(3) 募金協力者の拡大

- ・再生紙製造販売企業より再生紙を活用した資材提供の申し出があり、緑の羽根に代わる資材として、新たに「しおり」を作成しました。
- ・燃料供給や車の販売・整備の事業者、及び廃食用油回収リサイクル販売の事業者より、購入ポイントや売り上げに伴う寄付が継続しています。

丸楽紙業株式会社の再生紙
「都会の森林ペーパー」を使用したしおり



緑化推進・森林の整備事業

(1) 緑化推進事業等交付金

募金活動に協力した団体、学校、企業による地域や学校の緑化を推進するため、募金額の40%を上限に、該当団体の申請に基づき緑化推進事業等交付金を交付しています。

2024(令和6)年度は、295団体に対し、3,090,008円を交付しました。

〈交付金を活用した緑化活動〉



認定こども園みどり丘幼稚園



帝塚山学院小学校



岸和田市公園緑化協会



柏原市立堅下北中学校



富田林市立大伴小学校



豊中市立北緑丘小学校

(2) 堺第7－3区「共生の森づくり」の推進

堺第7－3区は、府内の産業廃棄物を受け入れ埋立てしてきた大阪府堺臨海部の産業廃棄物埋立処分場です。全体約280ヘクタールのうち、市民・NPO等の参加のもと、森として整備することが位置づけられた100ヘクタールの区域を「共生の森」として、植栽及び育樹イベントの開催等により森づくりを推進しています。

2024(令和6)年度は、前年までに植樹活動が一段落したため、育樹活動を中心とした「第1回共生の森育樹祭」(3/8)に対し助成を行いました。



第1回共生の森育樹祭

(3) 生駒山系花屏風活動支援事業

大阪商工信用金庫エコ定期「まねきeco」や「商工さくら基金」からの「緑の募金」を活用し、大阪の市街地から見渡せる生駒山系を屏風に見立て、府民の協働により、ヤマザクラなどの花木や紅葉の美しい樹木の植樹を進めています。

2024(令和6)年度は、生き物の保全・育成、自然観察会や野外体験学習活動、森林保全等のボランティアを養成する活動等、生駒山系花屏風構想の普及啓発に資する行事に対象を拡大し、10団体に助成を行いました。

また、一般参加による花屏風ハイキング(東大阪市11/9)が開催され、ハイキングとともにごみ拾いや植樹が行われ、緑の募金の呼びかけも行いました。

団体名	活動場所	植栽樹種・本数、活動内容	参加人数(人)
神立水呑地蔵講	八尾市	ヨウキヒザクラ2本、シダレザクラ1本、カワヅザクラ1本	8
交野里山ゆうゆう会	交野市	バタフライガーデンによる生物の保全、環境教育	9
寺区さともり保全会	交野市	枯竹除去、竹林間伐桜植樹予定地の整備	33
森区山地保全会	交野市	ソメイヨシノ30本	84
交野自然の杜クラブ	交野市	野草の調査と保全活動、キンラン現地増殖の取り組み	107
NPO法人日本パークレンジャー協会	交野市	ヤマザクラ30本、維持管理・体験学習・ボランティア養成	58
日下山を市民の森にする会	東大阪市	環境学習(小学生に現地案内・丸太切り体験活動)、維持管理	109
大東北条里山クラブ	大東市	ハナミズキ5本、維持管理、ハイキング道整備	55
枚岡公園ドングリの会	東大阪市	アジサイ5本	113
枚岡ネイチャークラブ	東大阪市	ヤマザクラ11本、環境学習(セミ羽化観察、工作、イベント)	22
合計		植栽本数:85本	598



交野自然の杜クラブ



枚岡公園ドングリの会



花屏風ハイキングでの募金活動

(4)学校・園への助成事業

※詳細は、P.26～27に掲載。

(5)緑の少年団活動支援事業

大阪府内の緑の少年団連盟事務局として、総会(6月23日)を実施しました。交流集会を鶴見緑地公園(大阪市)で開催(11/30)し、85名が参加しました。また、子どもたちが緑や自然に触れ、森林や緑化に関する意識が高められるよう、連盟所属の4団に対して活動助成を行いました。



交流集会



交流集会



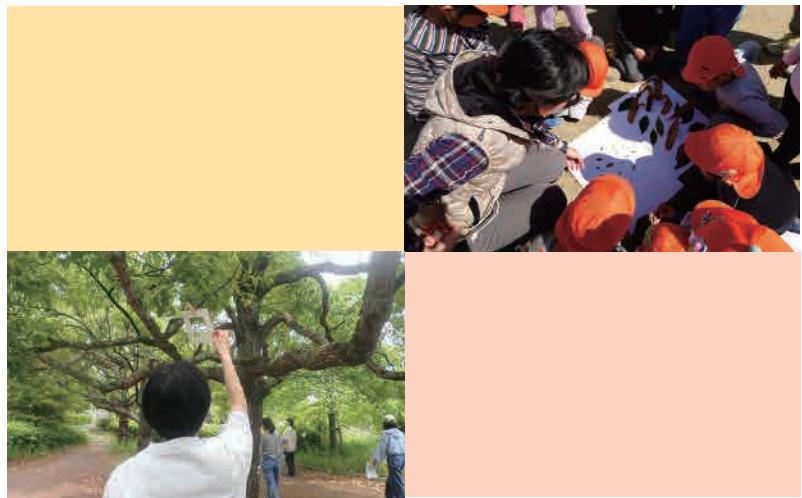
(6) 緑化推進運営協議会の運営

緑の募金の適切な運用を図るため、有識者からなる緑化推進運営協議会を開催しています。
2024(令和6)年度の開催状況は以下の通りです。

5月22日(火)	第64回 緑化推進運営協議会	議案 ・2023(令和5)年度事業報告について ・2023(令和5)年度決算報告について
2月25日(火)	第65回 緑化推進運営協議会	報告案件 ・2024(令和6)年度事業概要について ・2024(令和6)年度「緑の募金」収支決算見込みについて 議案 ・2025(令和7)年度「緑の募金」事業計画案について ・2025(令和7)年度「緑の募金」収支予算案について

【2025(令和7)年度の主な事業】

- ・緑の募金運動および普及啓発の円滑な推進を図るため、募金資材を整備し、活用します。
- ・SDGs達成への貢献を目指し、緑の未来を担う子どもたちへの助成など緑化推進・森林の整備事業を進めます。
- ・府内各地で行われる各市町村や各種団体等の緑化関連イベントなどで緑の募金活動・PRを行います。



森林環境教育・森林 E S D 普 及 啓 発 そ の 他

森林ESDを「持続可能な社会づくりの担い手を育むことを目的に、森林・里山や校庭・公園などの身近な自然環境を活用して行う学習や活動」と定義付けし、より多くの小学校・保育の現場で質の高い森林ESDが実践される環境の整備に向けて、関心を持つ諸団体と連携し、様々な取り組みを進めています。

普及啓発については、メールマガジン、ホームページ、SNS、動画配信等、多様な媒体による重層的な情報発信を行い、より多くの皆さまに当協会が行う事業について知っていただく機会を設けていきます。



森林環境教育・森林ESDの推進事業

森林環境教育・森林ESDの推進事業は、学校等への助成事業に加え、教育関係者と林業・自然環境保全関係者のネットワークづくりなど、環境整備に主眼をおいた取組みを進めました。

(1) みどりづくりの輪活動支援事業

子どもたちが参加して行われる、生物多様性につながる自然環境保全活動、森林整備活動、校庭・園庭等の緑化やビオトープ整備等へ助成しています。

2024(令和6)年度は、5校・園へ助成しました。

団体名	活動の概要	写真
ゆめの樹こども園さかい (堺市)	園庭に築山とビオトープを新設しました。園児・保護者・保育士・卒園児など多くの参加者が、穴掘り、土の運び出し、石の選別、防水シート張り、芝はり、植栽などの作業に積極的に参加しました。	
大阪市立大宮小学校	「生物多様性保全」をテーマに、5年生がビオトープのエコトーンの創出など改善に取り組みました。また、全学年がビオトープを体験の場として活用し、生物多様性について学習していました。	
岸和田市立修斎小学校	地域の神於山でのオリエンテーションで里山の自然を学び、校庭の緑化活動(サクラの植樹・花壇の整備)に取り組みました。植樹に際して、サクラや天敵クビアカツヤカミキリについても学びました。	
貝塚市立東山小学校	全体が植物に覆われていたビオトープを再整備しました。全校集会でビオトープ整備の様子や水生植物の紹介をする、校内の樹木に樹名板を付けるなど、環境意識の向上につながる取組みもありました。	
大阪市立天満中学校	大阪府産木材を購入して、机・椅子を製作しました。地元の家具職人のサポートのもと、有志生徒、保護者、教職員が一丸となって、4日間にわたり机2台、椅子13脚を完成させました。	

助成事業に関連して、学校が活動の検討・計画段階に専門家による助言を得られるよう、専門家の紹介や派遣費用助成等の支援を行いました。

2024(令和6)年度は、2件の専門家派遣を実施しました。

(2)みどりの一歩事業

公益社団法人国土緑化推進機構の緑の募金助成金を活用し、幼稚園、こども園、保育園などで身近な緑づくり(植樹)と環境教育(緑の教室)のイベントを開催しました。

2024(令和6)年度は4園で実施しました。

実施園名	所在地	植樹・本数	参加者数
社会福祉法人鳳会菜の花こども園	堺市	キンモクセイ1本、オリーブ1本	89名
岸和田市立千喜里保育所	岸和田市	アジサイ、ツツジ他16本	36名
大阪市立九条幼稚園	大阪市	クヌギ1本	68名
社会福祉法人みおつくし福祉会 北中本保育園	大阪市	常緑ヤマボウシ1本	45名

〈植樹〉



〈緑の教室〉



(3)教育大学学生向け講習の企画・運営等

大阪森林インストラクター会と連携し、大阪教育大学の1回生の学生約90名を対象に、「図画工作」授業の時間を活用し、「どこでもできる森林ESD体験講座」を実施しました。



(4) 国土緑化運動・育樹運動ポスター原画コンクール

国土緑化運動を推進するためのポスター原画コンクールを実施しています。

令和7年用国土緑化運動・育樹運動ポスター原画コンクールは、大阪府内の小学校・中学校・高等学校より18校／106点の応募(参加総数 677点。各学校10作品まで応募可)がありました。10月に審査会を開催し、優秀作品14点を選び、公益社団法人国土緑化推進機構中央審査会に応募しました。その結果1名が入選しました。

【大阪みどりのトラスト協会賞】

※学年は作品応募当時です。

小学校の部



「おばあちゃんのとまとだいすき」
堺市立新金岡小学校
1年 谷口 葵香 さん



「町と森はなかよし」
大阪市立開平小学校
2年 斎藤 由一 さん



「雨あがりの森とハト」
大阪市立開平小学校
3年 福本 彩良 さん

【中央審査会入選】

高等学校の部

国土緑化推進機構理事長賞



「あの木のように」
大阪府立工芸高等学校
1年 林 千鶴 さん

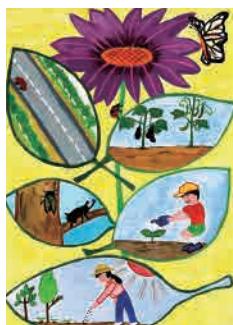
小学校の部



「ばあちゃんの土佐茶つみ」
堺市立新金岡小学校
4年 岩崎 未桜 さん



「オオムラサキのいるみらいへ」
箕面市立箕面小学校
4年 奥村 幸来 さん



「人とみどりのつながり」
大阪市立開平小学校
5年 中谷 実仁 さん

中学校の部



「成長する街」
富田林市立明治池中学校
1年 井上 奏多 さん



「熱帯都市OSAKA」
富田林市立明治池中学校
1年 井上 陽希 さん

中学校の部

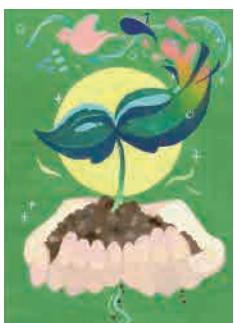


「私たちが守るべき緑」
初芝立命館中学校
1年 西岡 柚衣 さん



「自然と命」
堺市立月州中学校
3年 小路口 芽以 さん

高等学校の部



「緑紡ぐ命」
大阪府立工芸高等学校
1年 菅谷 紗恵子 さん



「ここにはまだまだ溢れてる」
大阪府立工芸高等学校
2年 馬場 花奈 さん

令和6年用中央審査会にて、小学校の部「入選 国土緑化推進機構理事長賞」を受賞した箕面市立西南小学校 4年(応募当時)西尾 健成さんの作品が、全国の2025年の緑の募金普及啓発のメインイメージに選ばれました。



2025年緑の募金ポスター

(5)パネル展示の開催

大阪府立中央図書館(4/18~5/6)や、近畿中国森林管理局「森林(もり)のギャラリー」(7/8~7/31)にて、「子どもたちにもっとみどりを～緑の募金を活用したみどりづくりや木の利用を進めるための活動支援紹介～」と題し、パネル展示を行いました。

同時に「令和6年用国土緑化運動・育樹運動ポスター原画コンクール」中央審査会入選の1点をはじめ、大阪みどりのトラスト協会賞13点及び佳作14点を展示しました。



大阪府立中央図書館:パネル展示



大阪府立中央図書館:ポスターコンクール作品展示



近畿中国森林管理局 森林(もり)のギャラリー展示

【2025(令和7)年度の主な事業】

- 子どもたちが、森林や木材利用、生物多様性への理解を深めることを目的に、身近な緑化や森林整備などの活動、森林ESDや緑の大切さを知る学習などを支援する助成事業を実施します。
- 引き続き、大阪教育大学、大阪森林インストラクター会等と連携し、森林ESDを体験する教育大学学生向け講習を実施します。
- 国土緑化運動・育樹運動ポスター原画コンクールの募集・作品の展示を継続します。
- 森林環境教育・森林ESDなどの普及啓発を目的としたパネル展を実施します。



普及啓発事業

ホームページ・SNSを活用し、メールマガジン配信と連動したタイマーーな情報発信を行いました。イベントへの出展では、認知度向上につながるようパンフレットの配布やパネル展示を行いました。

2025(令和7)年度も引き続き、情報発信・普及啓発に努めます。

(1)会報誌の発行・メールマガジンの発行

会報誌「ANNUAL REPORT 2023(みどりのトラストNo.107)」を発行しました(7月)。メールマガジンを、約600の団体及び個人に定期配信し(月1回)、最新情報の発信を行いました。

(2)ホームページの運営・SNSの活用

ホームページは、自然環境保全事業では、イベント告知とスタッフブログを中心に、活動地の最新情報をお知らせしました。緑の募金事業では、募金がどのように活用されているかを活用事例ページで紹介しました。Facebook・Instagramを活用し、それぞれの特徴に応じた内容を配信しました。



Instagram投稿画像

(3)普及啓発イベントへの参加

当協会が行うシンポジウム・観察会などのイベント時や、企業の総会、地域のイベントなどへ参加し、緑の募金への協力の呼び掛けやパネル展示、丸太切りやクラフト体験などを行いました。

- ・一般社団法人大阪損害保険代理業協会総会(5/21)
- ・福田屋トークイベント(5/25)
- ・能勢てっぺんフェスタ(10/6)
- ・枚方環境フェスタ(10/20)
- ・水都おおさか森林の市(10/27)
- ・大阪府木材連合会SDG's発表会(11/7)
- ・生駒花屏風ハイキング(11/9)
- ・コープフェスタ(11/9)
- ・大阪自然史フェスティバル(11/16・17) など



水都おおさか森林の市:パネル展示



大阪府木材連合会SDG's発表会:緑の募金PR



コープフェスタ:丸太切り体験

会議開催状況

2024(令和6)年度の理事会、評議員会の開催状況は以下のとおりです。

(1)理事会

6月6日(木) WEB会議	第31回理事会	第1号議案 「2023(令和5)年度事業報告について」 第2号議案 「2023(令和5)年度決算について」 第3号議案 「第14回定時評議員会招集について 評議員・理事・監事の改選に伴う候補者の推薦について」
7月8日(月)	決議の省略	第1号議案 「理事の改選に伴う代表理事(会長)選定の件」 第2号議案 「理事の改選に伴う常務理事選定の件」
9月9日(月)	決議の省略	第1号議案 「評議員候補者1名の評議員会への推薦の件」 第2号議案 「評議員会の決議の省略による方法により、 評議員1名の選任を求める件」
3月7日(金) WEB会議	第32回理事会	第1号議案 「嘱託職員への2024年度臨時賞与の支給について」 第2号議案 「2025(令和7)年度事業計画について」 第3号議案 「2025(令和7)年度収支予算について 資金調達及び設備投資の見込みについて」 第4号議案 「常勤役員の報酬額の決定について」 第5号議案 「育児・介護休業規程の改正について」

(2)評議員会

6月24日(月) WEB会議	第14回評議員会	報告事項 「2023(令和5)年度事業報告について」 第1号議案 「2023(令和5)年度決算について」 第2号議案 「評議員の改選について」 第3号議案 「理事の改選について」 第4号議案 「監事の改選について」
9月24日(火)	決議の省略	第1号議案 「評議員1名の選任の件」

内部管理体制の整備状況

2024(令和6)年度において下記の規程を改正しました。

3月7日(金)	育児・介護休業規程の改正
---------	--------------



正味財産増減計算書内訳表

2024年4月1日から2025年3月31日まで

(単位:円)

科 目	公益目的事業会計				法人会計	合計
	公 1 自然環境保全事業	公 2 緑の募金事業	共 通	小 計		
I 一般正味財産増減の部						
1. 経常増減の部						
(1) 経常収益						
基本財産運用益	0	0	0	0	3,575,275	3,575,275
基本財産受取利息	0	0	0	0	3,575,275	3,575,275
特定資産運用益	48,400	0	0	48,400	0	48,400
特定資産受取利息	48,400	0	0	48,400	0	48,400
受取会費	1,014,000	0	0	1,014,000	0	1,014,000
会員受取会費	1,014,000	0	0	1,014,000	0	1,014,000
受取補助金等	25,011,233	743,903	0	25,755,136	0	25,755,136
受取国庫補助金	5,650,400	0	0	5,650,400	0	5,650,400
受取地方公共団体補助金	13,119,000	0	0	13,119,000	0	13,119,000
受取民間補助金	3,150,000	693,903	0	3,843,903	0	3,843,903
受取受託金	1,348,600	50,000	0	1,398,600	0	1,398,600
指定正味財産からの振替額	1,743,233	0	0	1,743,233		1,743,233
受取負担金	1,137,938	0	0	1,137,938	0	1,137,938
受取負担金	1,137,938	0	0	1,137,938	0	1,137,938
受取寄付金	1,835,572	15,098,727	0	16,934,299	0	16,934,299
受取寄付金	1,835,572	0	0	1,835,572	0	1,835,572
募金収益	0	15,098,727	0	15,098,727	0	15,098,727
雑収益	65,676	1,483	0	67,159	6,098	73,257
受取利息	0	575	0	575	6,098	6,673
雑収益	65,676	908	0	66,584	0	66,584
経常収益計	29,112,819	15,844,113	0	44,956,932	3,581,373	48,538,305
(2) 経常費用						
事業費	30,297,093	15,846,003	0	46,143,096		46,143,096
役員報酬	936,000	234,000	0	1,170,000		1,170,000
給料手当	10,173,937	3,926,534	0	14,100,471		14,100,471
福利厚生費	1,474,250	587,283	0	2,061,533		2,061,533
会議費	0	0	0	0		0
旅費交通費	1,721,170	204,100	0	1,925,270		1,925,270
通信運搬費	387,583	547,298	0	934,881		934,881
減価償却費	117,328	0	0	117,328		117,328
消耗品費	2,635,269	1,786,601	0	4,421,870		4,421,870
印刷製本費	251,375	217,525	0	468,900		468,900
燃料費	167,828	22,887	0	190,715		190,715
賃借料	3,301,080	984,336	0	4,285,416		4,285,416
保険料	646,243	4,210	0	650,453		650,453
使用料	528,360	200,637	0	728,997		728,997
委託費	3,183,670	339,528	0	3,523,198		3,523,198
募金事務費	0	139,492	0	139,492		139,492
諸謝金	2,489,850	168,000	0	2,657,850		2,657,850
支払負担金	1,289,609	180,086	0	1,469,695		1,469,695
支払助成金	698,466	2,461,380	0	3,159,846		3,159,846
支払手数料	267,542	193,298	0	460,840		460,840
緑化事業等交付金	0	3,648,008	0	3,648,008		3,648,008
光熱水費	9,893	0	0	9,893		9,893
租税公課	17,640	800	0	18,440		18,440

科 目	公益目的事業会計				法人会計	合計
	公 1 自然環境保全事業	公 2 緑の募金事業	共 通	小 計		
管理費					3,398,235	3,398,235
役員報酬					1,270,000	1,270,000
給料手当					640,135	640,135
福利厚生費					315,291	315,291
旅費交通費					11,616	11,616
通信運搬費					42,318	42,318
消耗品費					152,300	152,300
印刷製本費					44,880	44,880
賃借料					317,812	317,812
保険料					44,000	44,000
使用料					232,616	232,616
委託費					132,000	132,000
支払負担金					72,012	72,012
支払手数料					123,255	123,255
経常費用計	30,297,093	15,846,003	0	46,143,096	3,398,235	49,541,331
評価損益等調整前当期経常増減額	▲ 1,184,274	▲ 1,890	0	▲ 1,186,164	183,138	▲ 1,003,026
基本財産評価損益等	0	0	0	0	0	0
特定資産評価損益等	0	0	0	0	0	0
投資有価証券評価損益等	0	0	0	0	0	0
評価損益等計	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	▲ 1,184,274	▲ 1,890	0	▲ 1,186,164	183,138	▲ 1,003,026
2. 経常外増減の部						
(1) 経常外収益						
経常外収益計	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用						
経常外費用計	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0
他会計振替前当期一般正味財産増減額	▲ 1,184,274	▲ 1,890	0	▲ 1,186,164	183,138	▲ 1,003,026
他会計振替額	0	0	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	▲ 1,184,274	▲ 1,890	0	▲ 1,186,164	183,138	▲ 1,003,026
一般正味財産期首残高	13,634,985	▲ 4,236,785	0	9,398,200	▲ 84,152	9,314,048
一般正味財産期末残高	12,450,711	▲ 4,238,675	0	8,212,036	98,986	8,311,022
II 指定正味財産増減の部						
受取補助金等	3,406,767	0	0	3,406,767	0	3,406,767
受取民間補助金	5,150,000	0	0	5,150,000	0	5,150,000
一般正味財産への振替額	▲ 1,743,233	0	0	▲ 1,743,233	0	▲ 1,743,233
受取寄付金	280,000	0	0	280,000	0	280,000
基本財産評価損益	0	0	0	0	▲ 25,106,280	▲ 25,106,280
特定資産評価損益	▲ 1,495,560	0	0	▲ 1,495,560	0	▲ 1,495,560
当期指定正味財産増減額	2,191,207	0	0	2,191,207	▲ 25,106,280	▲ 22,915,073
指定正味財産期首残高	23,286,600	0	0	23,286,600	243,316,510	266,603,110
指定正味財産期末残高	25,477,807	0	0	25,477,807	218,210,230	243,688,037
III 正味財産期末残高	37,928,518	▲ 4,238,675	0	33,689,843	218,309,216	251,999,059



貸 借 対 照 表

(2025年3月31日現在)

科 目	当年度	前年度	増 減
	円	円	
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	6,488,186	8,328,324	△ 1,840,138
未収金	4,833,731	2,221,158	2,612,573
立替金	374,587	1,309,493	△ 934,906
前払金	322,314	352,170	△ 29,856
流動資産合計	12,018,818	12,211,145	△ 192,327
2 固定資産			
(1)基本財産			
定期預金	3,310,418	3,310,418	0
普通預金	19,592	19,592	0
投資有価証券	214,880,220	239,986,500	△ 25,106,280
基本財産合計	218,210,230	243,316,510	△ 25,106,280
(2)特定資産			
トラストファンド			
普通預金	1,380,040	1,100,040	280,000
投資有価証券	20,691,000	22,186,560	△ 1,495,560
トラストファンド合計	22,071,040	23,286,600	△ 1,215,560
特定費用準備資金			
地黄湿地保全事業準備資金	755,472	1,361,447	△ 605,975
普通預金	2,440,161	2,951,637	△ 511,476
大阪里山ネットワーク運営準備資金	3,195,633	4,313,084	△ 1,117,451
普通預金	3,406,767	0	3,406,767
特定費用準備資金合計	28,673,440	27,599,684	1,073,756
構築物（三草山防鹿柵及びオートクローザードア）			
特定資産合計	259,980,404	284,255,911	△ 24,275,507
(3)その他固定資産			
備品	46,085	96,741	△ 50,656
車両	1	1	0
長期前払費用	8,830	8,830	0
立木	1,023,000	1,023,000	0
その他固定資産合計	1,077,916	1,128,572	△ 50,656
固定資産合計	247,961,586	272,044,766	△ 24,083,180
資産合計	259,980,404	284,255,911	△ 24,275,507
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	7,481,444	7,723,303	△ 241,859
前受金	456,000	543,000	△ 87,000
預り金	43,901	72,450	△ 28,549
流動負債合計	7,981,345	8,338,753	△ 357,408
負債合計	7,981,345	8,338,753	△ 357,408
III 正味財産の部			
1 指定正味財産			
大阪府出捐金	100,000,000	100,000,000	0
寄附金	126,341,618	126,341,618	0
有価証券評価差額	△ 8,131,388	16,974,892	△ 25,106,280
基本財産合計	218,210,230	243,316,510	△ 25,106,280
ブナの森トラストファンド	14,118,944	14,892,102	△ 773,158
ゼフィルスの森トラストファンド	7,952,096	8,394,498	△ 442,402
トラストファンド合計	22,071,040	23,286,600	△ 1,215,560
民間補助金	3,406,767	0	3,406,767
指定正味財産合計	243,688,037	266,603,110	△ 22,915,073
(うち基本財産への充当額)	(218,210,230)	(243,316,510)	△ 25,106,280
(うちトラストファンドへの充当額)	(22,071,040)	(23,286,600)	△ 1,215,560
(うち構築物への充当額)	(3,406,767)	(0)	3,406,767
(うち特定費用準備資金への充当額)	(0)	(0)	0
2 一般正味財産	8,311,022	9,314,048	△ 1,003,026
(うち基本財産への充当額)	(0)	(0)	0
(うちトラストファンドへの充当額)	(0)	(0)	0
(うち構築物への充当額)	(0)	(0)	0
(うち特定費用準備資金への充当額)	(3,195,633)	(4,313,084)	△ 1,117,451
正味財産合計	251,999,059	275,917,158	△ 23,918,099
負債及び正味財産合計	259,980,404	284,255,911	△ 24,275,507

ANNUAL REPORT 2024

(みどりのトラスト 108号)

2024年度(2024.4-2025.3)事業報告

■ 表紙の絵

「オオムラサキのいるみらいへ」

令和7年用

国土緑化運動・育樹運動ポスター原画コンクール

小学生の部 大阪みどりのトラスト協会賞

箕面市立箕面小学校 4年(応募当時)

奥村 幸来 さん

■ 発行:2025(令和7)年7月





〈役員一覧〉

2025年6月末現在

会長	石井 実	大阪府立大学名誉教授 (地独)大阪府立環境農林水産総合研究所 理事長
理事	小笹 高裕	大阪ガス株式会社 総務部管理チーム マネジャー
理事	中村 夏美	大阪府生活協同組合連合会 専務理事
理事	平井 規央	大阪公立大学大学院農学研究科 緑地環境科学専攻 環境動物昆虫学研究グループ 教授
理事	藤原 宣夫	大阪公立大学名誉教授
理事	前迫 ゆり	奈良佐保短期大学 教授・副学長
常務理事	長井 聖治	公益財団法人大阪みどりのトラスト協会 常務理事
監事	鎌田 邦彦	弁護士法人第一法律事務所 弁護士・弁理士
監事	松本 勝幸	松本公認会計士事務所 公認会計士・税理士

〈評議員一覧〉

2025年6月末現在

評議員	栗本 修滋	大阪府森林組合 代表理事組合長
評議員	竹野 瑞光	大阪市建設局 公園緑化部長
評議員	田中 武次	大阪府環境農林水産部 みどり推進室 室長
評議員	深町 加津枝	京都大学大学院 地球環境学堂 景観生態保全論分野 准教授
評議員	山本 勝利	大阪商工信用金庫 業務推進部兼業務企画部 執行役員 部長

法人名称 公益財団法人大阪みどりのトラスト協会

所在地 〒559-0034
大阪市住之江区南港北2丁目1番10号
ATCビルITM棟11F西
TEL:06-6614-6688 / FAX:06-6614-6689

事業内容 1.貴重な自然環境の保全及び生物多様性、里山の保全
2.自然環境の保全、緑化に関する普及啓発及び調査研究
3.緑の募金運動の推進
4.森林環境教育・森林ESDの推進
5.緑化事業、森林整備等への助成
6.ボランティアの育成、活動支援
7.CSR活動のサポート

設立 1989(平成元)年11月1日
公益財団法人移行年月日:2012(平成24)年4月1日

みどりの未来をわたしたちの手で



<https://www.ogtrust.jp>